

2026年6月15日

報道関係者各位

国立大学法人 鹿児島大学  
国立大学法人 広島大学

## 種子島沖から“巨大な眼”を持つ新種を発見！

### 水深1,200mの暗闇に生きる甲殻類「オオメダマヨコエビ」

このたび、鹿児島大学の小玉将史助教、渡部泰斗水産学部生、広島大学の中口和光准教授、若林香織准教授からなる研究グループは、種子島沖、水深約1,200 mの深海から、頭の大部分を覆うほど大きな白い眼をもつ新種のヨコエビを発見しました。本種は学名 *Harcledo toyoshioae* と命名し、和名には「オオメダマヨコエビ」を提唱しました。

本研究の成果は、2026年6月5日付で英国の学術雑誌『Systematics and Biodiversity』に掲載されました。

#### 【研究内容】

水深約1,000m以深である深海漸深層は、太陽光がほとんど届かない環境であり、特殊な環境に適応した多様な生物が生息していると考えられています。しかし、その実態はいまだ十分には解明されていません。

このたび、鹿児島大学の小玉将史助教、渡部泰斗水産学部生、広島大学の中口和光准教授、若林香織准教授からなる研究グループは、種子島沖の水深約1,200 mの深海漸深層から、巨大に発達した眼をもつ小さな甲殻類を発見しました(図1)。

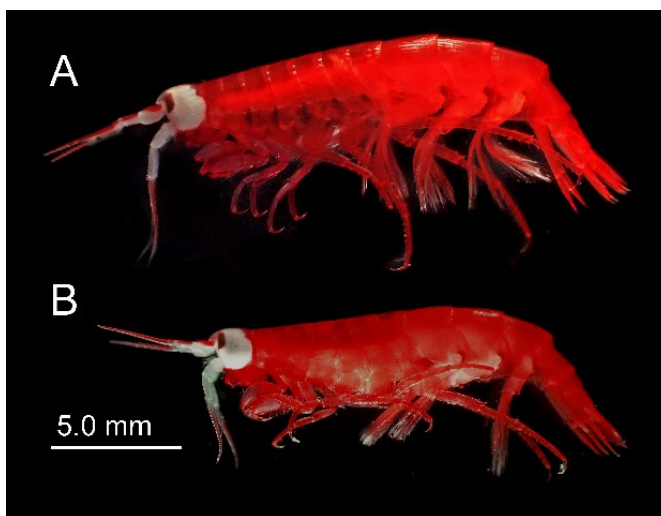


図1. 記載されたオオメダマヨコエビの生時の体色  
A. ホロタイプ(種の基準となる標本)  
B. パラタイプ 出版社の許可を得て、当該論文から転載

今回発見されたのは、端脚目ヨコエビ類の一種です。本種は、広島大学生物生産学部の附属練習船豊潮丸に装備されたプランクトンネット(ORI ネット)によって採集されました。体長は約 2 cm で、深紅の体色と、頭部の大部分を覆うほど発達した巨大な白い眼をもつことが大きな特徴です。

本種について詳細な分類学的検討を行った結果、テンロウヨコエビ科 Eusiridae に属することが示されました。一方で、既知のいずれの種にも一致しない特徴を備えていることが明らかとなり、未記載種であると判断されました。とくに、本種の眼は背面から見ると左右が頭部背側で接するほど大きく(図 2)、この点で近縁種から容易に識別できます。そこで本研究では、本種を新種 *Harcledo toyoshioae* Kodama, Watabe, Nakaguchi & Wakabayashi, 2026 として記載しました。種小名“*toyoshioae*”は、本種の採集に貢献した豊潮丸に献名したものです。また、その巨大な眼にちなみ、和名として「オオメダマヨコエビ」を提唱しました。

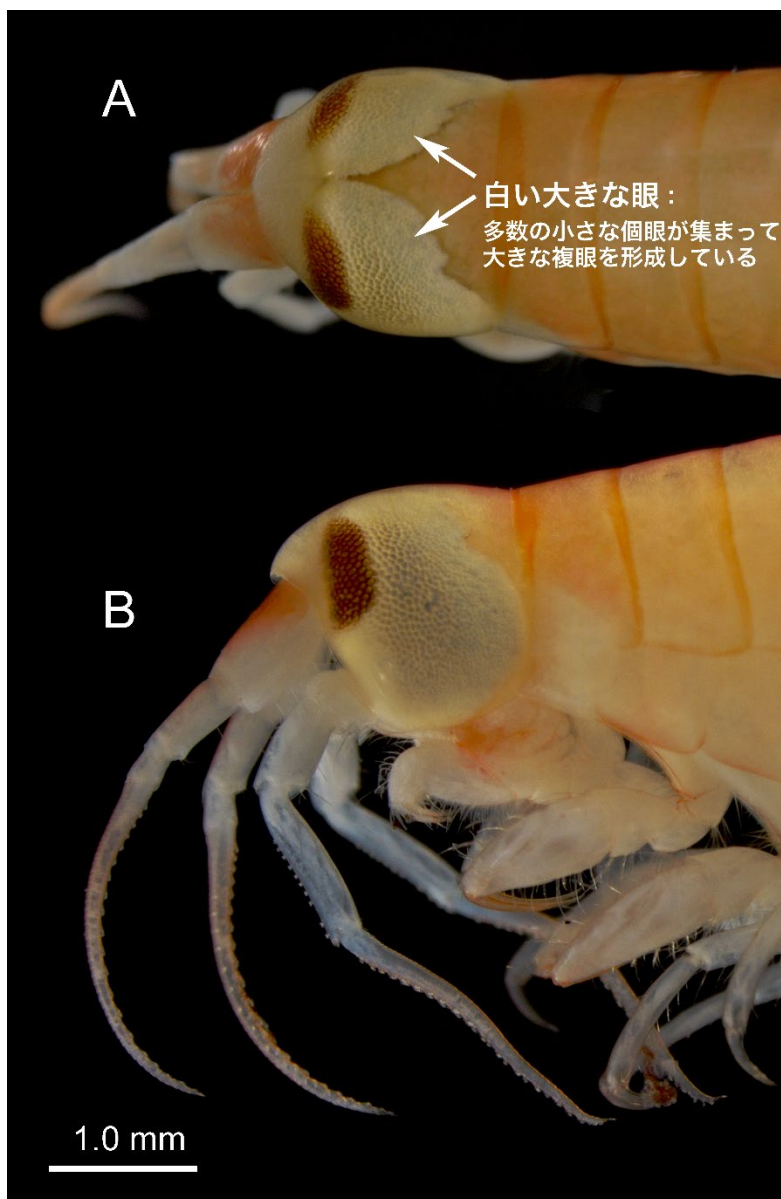


図 2. オオメダマヨコエビの頭部(固定標本)  
A. 背面: 巨大な左右の眼が背部で接している  
B. 側面: 眼が頭部ほとんどを覆っている  
出版社の許可を得て、当該論文から転載

本研究では、新種記載にあわせて、分子系統解析や DNA バーコーディングに用いられるミトコンドリア DNA の COI 領域や 16S rRNA 領域等の塩基配列も決定しました。水深が深くなるほど太陽光は著しく減衰するため、深海生物では、しばしば眼の巨大化や退化といった光環境に対する進化的適応がみられます。本種の発見は、深海性甲殻類における眼の適応進化を考える上で、重要な知見となる可能性があります。

これらの成果は、2026 年 6 月 5 日付で英国の学術雑誌『Systematics and Biodiversity』に掲載されました。

### 【研究の背景と意義】

日本近海におけるヨコエビ類の分類学的研究はいまだ十分とはいえず、近年も新種の発見・記載が相次いでいます。加えて、これまでのヨコエビ類の調査の多くは海底を対象としており、プランクトンネットを用いた水柱中の調査はあまり行われてきませんでした。とりわけ、今回オオメダマヨコエビが発見された深海漸深層は調査が難しい環境であり、調査のためには練習船や調査船による協力が不可欠であるため、これまで特に調査が行われてこなかった環境の一つです。今回、豊潮丸の協力によってそのような環境での調査が実現し、新種の発見につながりました。今後も同様の環境で調査を進めることで、さらに多くの未知の種が見いだされるかもしれません。

### 【研究体制】

本研究は、以下の研究チームによって進められました。

- ・小玉 将史(鹿児島大学水産学部・助教)
- ・渡部 泰斗(鹿児島大学水産学部・4 年生)
- ・中口 和光(広島大学生物生産学部・准教授;附属練習船豊潮丸・船長)
- ・若林 香織(広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授)

乗船による調査は、中口・若林が担当しました。形態観察と遺伝子解析、分類学的検討は小玉・渡部が担当しました。論文原稿の執筆は小玉が主担当し、他 3 名が原稿の内容について改訂・改善を行いました。本研究の遂行に際して、広島大学附属練習船豊潮丸の設備を利用しました。また、本研究は、JSPS 科研費 23K26985 の助成を受けました。

### 【掲載論文】

題名 : A new species of giant-eyed bathypelagic eusirid amphipod (Crustacea: Amphipoda: Eusiridae) from the western North Pacific

著者 : Masafumi Kodama<sup>1</sup>, Hiroto Watabe<sup>1</sup>, Kazumitsu Nakaguchi<sup>2</sup>, Kaori Wakabayashi<sup>3</sup>

<sup>1</sup>Faculty of Fisheries, Kagoshima University

<sup>2</sup>School of Applied Biological Science, Hiroshima University

<sup>3</sup>Graduate School of Integrated Sciences for Life, Hiroshima University

書誌情報: Systematics and Biodiversity, 24(1), 2659885.

(DOI: 10.1080/14772000.2026.2659885)

出版日 : 2026 年 6 月 5 日

## 【お問い合わせ先】

※メールアドレスの[at]は@に置き換えてください

### (研究に関すること)

鹿児島大学 水産学部水圏科学分野 助教

小玉 将史 (コダマ マサフミ)

〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田 4-50-20

TEL: 099-286-4143

E-mail: mkodama[at]fish.kagoshima-u.ac.jp

※教務等で不在にしている時間が多いので、まずはメールにてご連絡賜れば幸いです。

広島大学 生物生産学部 准教授 ; 附属練習船豊潮丸・船長

中口 和光(ナカグチ カズミツ)

〒737-0029 広島県呉市宝町 7-4

E-mail: nakaguchi-kazu3[at]hiroshima-u.ac.jp

広島大学 大学院統合生命科学研究科 准教授

若林 香織(ワカバヤシ カオリ)

〒739-8528 広島県東広島市鏡山 1-4-4 広島大学生物生産学部

E-mail: kaoriw[at]hiroshima-u.ac.jp

### (広報に関すること)

鹿児島大学広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24

TEL: 099-285-7035

E-mail: sbunsho[at]kuas.kagoshima-u.ac.jp

広島大学広報グループ

〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2

TEL:082-424-3701

E-mail: koho[at]office.hiroshima-u.ac.jp